

出動回数は約5秒に1回
限りある資源の適正利用を

救

急車の出動件数は、全国で年間619万件以上にのぼり、平均で約5秒に1回出動していることをご存じですか？

救急要請は全国的に年々増加しており、広川町でも同様の傾向にあります。主な原因の一つに「緊急ではない内容の通報」の増加が挙げられています。

近年は、コロナ禍の影響で医療機関がひっ迫しており、患者の受け入れ先が決まらず、30分以上現場にとどまらなければならぬ、というケースも報告されています。1回あたりの対応時間が長くなると、次の要請に即応できず「すべての要請が後ろ倒し」の悪循環になってしまふのです。

そのような状況下で不要な救急車の利用が増えると、本当に必要な要請に対応できず「救える命」が救えなくなってしまう。救急車は限りある資源です。119番通報をする前に本当に必要なのか、もう一度考えてみてください。

特集

人命を守るために、 私たちにできること



命にかかる病気やケガで緊急に病院へ行かなければならない場合は、迷わず「119番」

「近所に知られたくない」「恥ずかしい」などの理由で救急車の要請をためらうケースが見られます。患者の状況が重大であるほど、早急の手当が必要です。ためらわず、119番通報してください。

次のような症状がある場合は、迷わず救急車を呼びましょう

- ・言葉が出にくい
- ・突然片方の手足に力が入りにくくなった
- ・胸が締め付けられるように痛い
- ・頭が割れるように痛い
- ・息苦しい、呼吸がしにくい
- ・意識がない、けいれんを起こしている

❌救急車の誤った利用例

- ・今日が入院日だから
- ・自家用車がないから
- ・早く診察してもらえから
- ・タクシーだとお金がかかるから
- ・自分で病院を探すのが面倒だから

覚えておきたい！ — FIRST AID — 応急＋手当

けが人が出て救急車がすぐに駆けつけられるとは限りません。状況が緊急であるほど、最初にどのような対応をできるかが重要になります。事前の知識と備えはとても大切です。

万が一に備え、応急手当の方法を覚えておきましょう。消防署が実施する救命講習のほか、行政区の自主防災訓練などに参加するのもおすすめです。

●出血

出血部分にガーゼやタオルを当て、その上から手で圧迫することで止血する



・感染を防ぐため、ビニール手袋などを着用し、直接血液に触れないようにしましょう。

ポイント



●やけど

直接患部に当てないよう、10分以上流水で冷やし、みずぶくれを破らず医療機関へ



・衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やしましょう。

ポイント



●ねんざ

なるべく動かさないようにし、氷や冷水、湿布などで患部を冷やし、医療機関へ



・腫れがひどい場合は包帯などで軽く圧迫し、患部を心臓より高い位置に挙げておきましょう。

ポイント



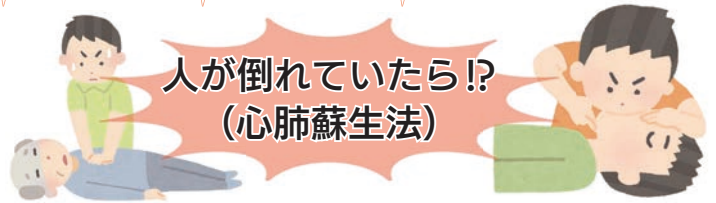
●骨折

折れた部分を動かさないよう、添え木を当て固定し、すぐに医療機関へ



・添え木がなければ、板や筒状にした雑誌など身近にあるもので代用し、上から三角巾などで固定しましょう。

ポイント



・反応を確認

周囲の安全を確認し、傷病者に呼びかけながら軽く肩などをたたき反応を確認する。

反応がなければ119番通報し、AEDを取り寄せる。周囲に人がいる場合は助けを求める。



・呼吸を確認

胸と腹部の動きを見て、動いていない、または普段と違う呼吸の場合「心肺停止」と判断し、胸骨圧迫を行う。



・胸骨圧迫

①傷病者の横に両ひざ立になる。

②胸の真ん中に片方の手のつけ根を置き、もう片方の手をその上に重ねる。

③肘を伸ばし、胸が約5センチ沈み込むように圧迫する。

④1分間に100～120回のテンポで絶え間なく圧迫する。

⑤周囲に複数の人がいる場合は交代で行う。



・胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ

人工呼吸ができる場合は「胸骨圧迫を30回、人工呼吸を2回」を1セットとして、この動作をAEDの到着もしくは救急隊員に引き継ぐまで繰り返す。

≫命を救うAED

AEDとは、心臓がこまかく震えること（心室細動）により、血液を体内に送り出せなくなっている状態になった心臓に対して、電気ショックを与えることで、正常なリズムに戻すための医療機器です。

Automated External Defibrillator の略で、日本語では「自動体外式除細動器」といいます。



— 勇気ある行動が命を救う！ —

突然の心停止状態の場合、AEDや心肺蘇生法を行うことで、救命率が格段に上がります。
あなたの行動が大切な命を救うことにつながります。

≫人工呼吸の方法

・仰向けに寝かせる

・片方の手のひらを額に、もう片方の手の人差し指と中指を下あごの先に当てて持ち上げ、頭を後ろにそらす

・気道を確保したまま傷病者の鼻をつまみ、口を大きく開けて傷病者の口を覆い、空気が漏れないように約1秒間かけて息を吹き込む（吹き込みは2回。吹き込んだ際、傷病者の胸が持ち上がるのを確認する）

※出血や傷があると感染の危険があるため、できるだけ人工呼吸用マスクを使いましょう。

※人工呼吸のやり方に自信がない場合や、口と口が直接接触することに抵抗がある場合は、人工呼吸を省略して胸骨圧迫をしましょう。



消防士・救急救命士にインタビュー!

RESCUE FIRE FIGHTERS -INTERVIEW-

「あなたの笑顔を、大切なこの町を守りたい」

消防士長・救急救命士

小川英徳さん（広川消防署）



— 八女消防本部に勤めて何年目ですか？
平成19年に拝命を受け、今年で16年目になります。

— 消防隊員・救急救命士になったきっかけを教えてください。

母親が看護師をしていたこともあり、子どもの頃から医療系の仕事に就きたいという思いがありました。その中でも、傷病者に第一の手を差し伸べる「救急救命士」に憧れを抱き、高校卒業後に国家資格を取得し、八女消防本部を受けました。

— この職業の魅力はなんですか？

災害現場での失敗は許されないうえ、心身ともに疲弊する時もあります。しかし、職務を遂行したときに住民の皆さまからいただく感謝の言葉が何よりうれしく、励みにもなります。子どもたちから「カッコいい」と手を振ってもらえるのも嬉しいですね。



— 普段はどのような訓練をしていますか？

災害現場は、刻一刻と状況が変わるため、瞬時の判断と的確な行動が必要です。連携訓練はもちろん、さまざまな場面を想定した「シミュレーション訓練」や「イメージトレーニング」も重要になります。

— 日ごろから心がけていることはありますか？

24時間の勤務態勢で、常に緊張感が張り詰めているため、場を和ませるために冗談を言うこともあります。しかし、出動指令がかかれば、瞬時に切り替えて災害活動に集中する。オンとオフのメリハリをつけるようにしています。そのほか、体調管理や災害活動に対応できる体づくりなど「現場で全力を出すための準備」を常に意識しています。

— 最後に、これから消防隊員・救急救命士を目指す人にひとこと！

とてもやりがいがある仕事です。この町を守るプロとして共に働きましょう！

消防士

松崎孔嗣さん（広川消防署）



「人を助ける仕事したい」

東日本大震災が消防士を目指したきっかけ

私は、昨年の10月1日に採用され、今年で2年目の消防士です。平成23年に起きた東日本大震災での消防職員の活躍に感銘を受け、この仕事を目指す決意をしました。災害現場は毎回状況が違い、人命救助を最優先に活動するため、高度な判断力や応用力が求められるところに難しさを感じます。訓練を重ねることで、少しずつ身につけていきたいですね。

休みの日を利用して、同僚数人でランニングやジムに通い「どんな過酷な現場でも立ち向かっていける消防職員」を目指し、体力や筋力も鍛えています。

地域の人たちの日常や笑顔を守るこの仕事を誇りに思います。

これからも、大好きなこの町を守るため、精進していきます。

